

Emergency Watch



神戸こども初期急病センター



2013年9月受診者数：2158人

訴え

1. 発熱	: 1243人 (915人)
2. 咳	: 935人 (269人)
3. 鼻汁	: 647人 (19人)
4. 嘔吐	: 387人 (131人)
5. 発疹	: 289人 (208人)

(カッコ内は、その症状を主な訴えとして来院した患者数)

疾患頻度

1. 急性上気道炎・咽頭炎	: 751人
2. 気管支喘息・喘息性気管支炎	: 307人
3. 感染性胃腸炎	: 281人
4. 気管支炎・肺炎	: 150人
5. じんま疹	: 89人

今月のワンポイント！

10月に入り朝晩肌寒くなってきましたがみなさまいかがお過ごしでしょうか？このような季節の変わり目は体調を崩しやすいのでどうぞご注意ください。

神戸こども初期急病センターの9月の総受診者数は2,158人で、前の月(8月)とほぼ横ばいでした。そんな中受診された理由として、最も多かったのはやはり発熱で1243人の方が受診されました。その他には呼吸困難を訴え受診される方が298人で、この原因となる気管支喘息・喘息性気管支炎の患者数が増加傾向です。秋は季節の変わり目で喘息発作が出やすいこと、またRSウイルスが流行していることが原因と考えられます。

RSウイルス感染症は全年齢がかかる感染症ですが、新生児、乳児、特に心臓や肺などに大きな基礎疾患を持つお子さんで重症化することが特徴です。潜伏期間は4-6日程度と考えられています。小さなお子さんがRSウイルスに罹患すると細気管支炎という、気管支の中でもっとも細いところが炎症をおこし、熱、ひどい咳、痰、喘鳴、息苦しさを認めるようになります。場合によっては、入院や、人工呼吸器での呼吸のサポートが必要になります。RSウイルス感染症には特別な治療法がなく、対症療法です。一部の基礎疾患をもつお子さまには「抗RSウイルスヒト化モノクローナル抗体製剤(シナジス®)が使用できますが、一般の方には適応がありません。したがって周りの大人の方も含め、予防をすることが大切です。外から帰ったら手洗いとうがいをを行い、大事なお子様に感染させないようにしましょう。熱が長引いたり、咳が悪化する傾向があれば早めに医療機関を受診してください。

